雛鶴

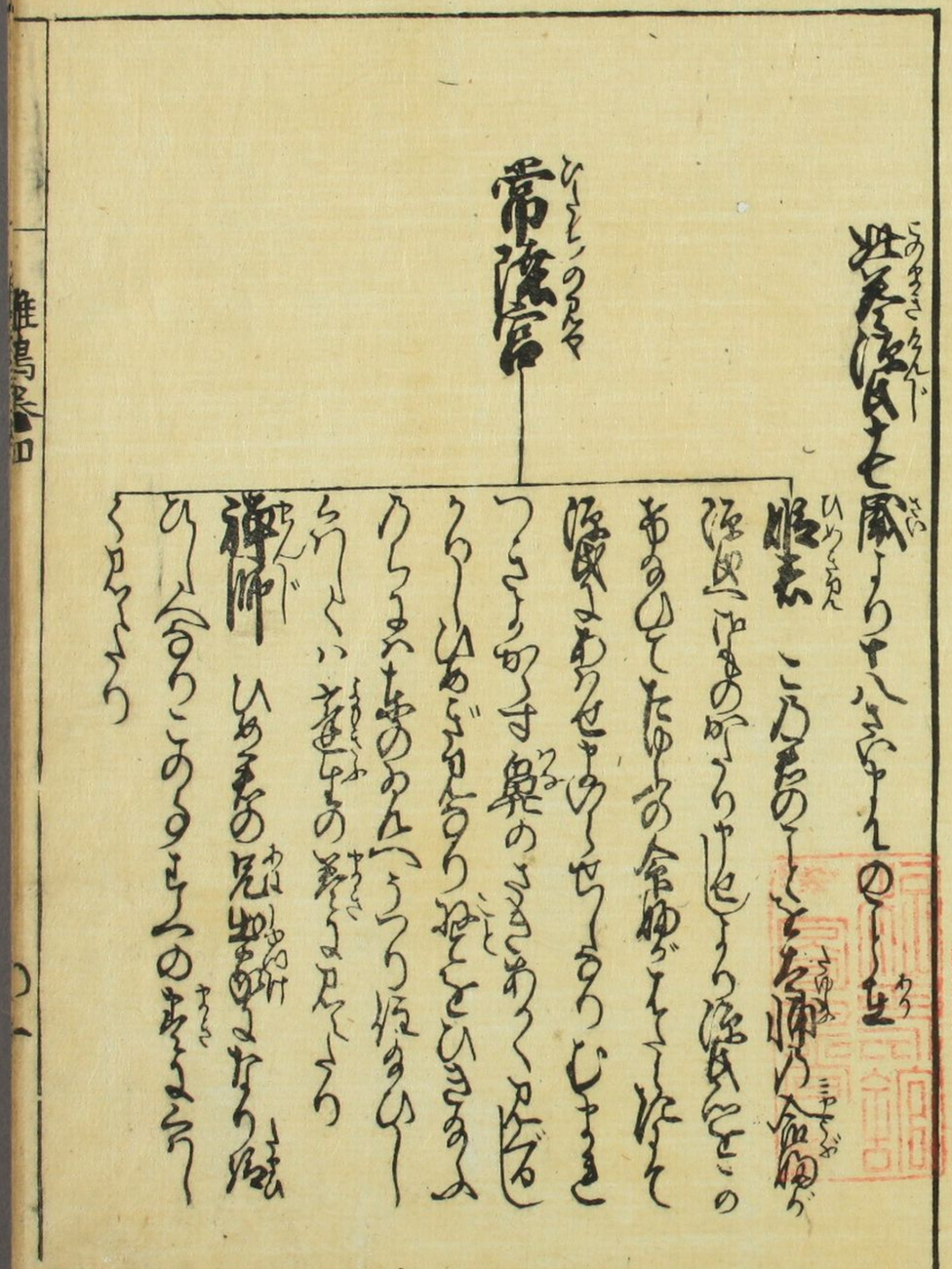
東陽山人

十三

此巻源氏を風より十八さいまんのこと也

昭君　こゝ君のことを右衛門合衛門が
源氏にはまのかたりゆゑより源氏をこの
あるひてたゆゑの合衛門をとて
源氏にあはせまゐらせしなりじまき
つきよかす鼻のさきあるくみだ
うしひめぎみなりねとをひきまゐ
ろうまいたまのみんへうつり給ひし
ちくハ蓬生の巻にみえたり
禅師　ひめ君の兄出家になり給
ひしへ合りこのまもへの巻にみえ
くみえたり

常陸宮



無邪古猫

古猫命婦こゝ乃合物が母をたゞ乃
乳母して源氏の御めのとゝそ乃ひもとめ
ありよりて大夏よこぶつゝして色
こゝめろうにき女なりが母より乃すゞこにて
源氏君も大内をはめしつゝひなしはひ
ありひめ君乃こゝろ人も此命婦がせしと

侍従

これハ姫君のうしろ見として。源氏乃家代也
るるゞもおしへてかゝせし女なりぴめさまの御方
りそハこゝ乃侍従ひとりをこしもゝ乃なれさう
世なりと

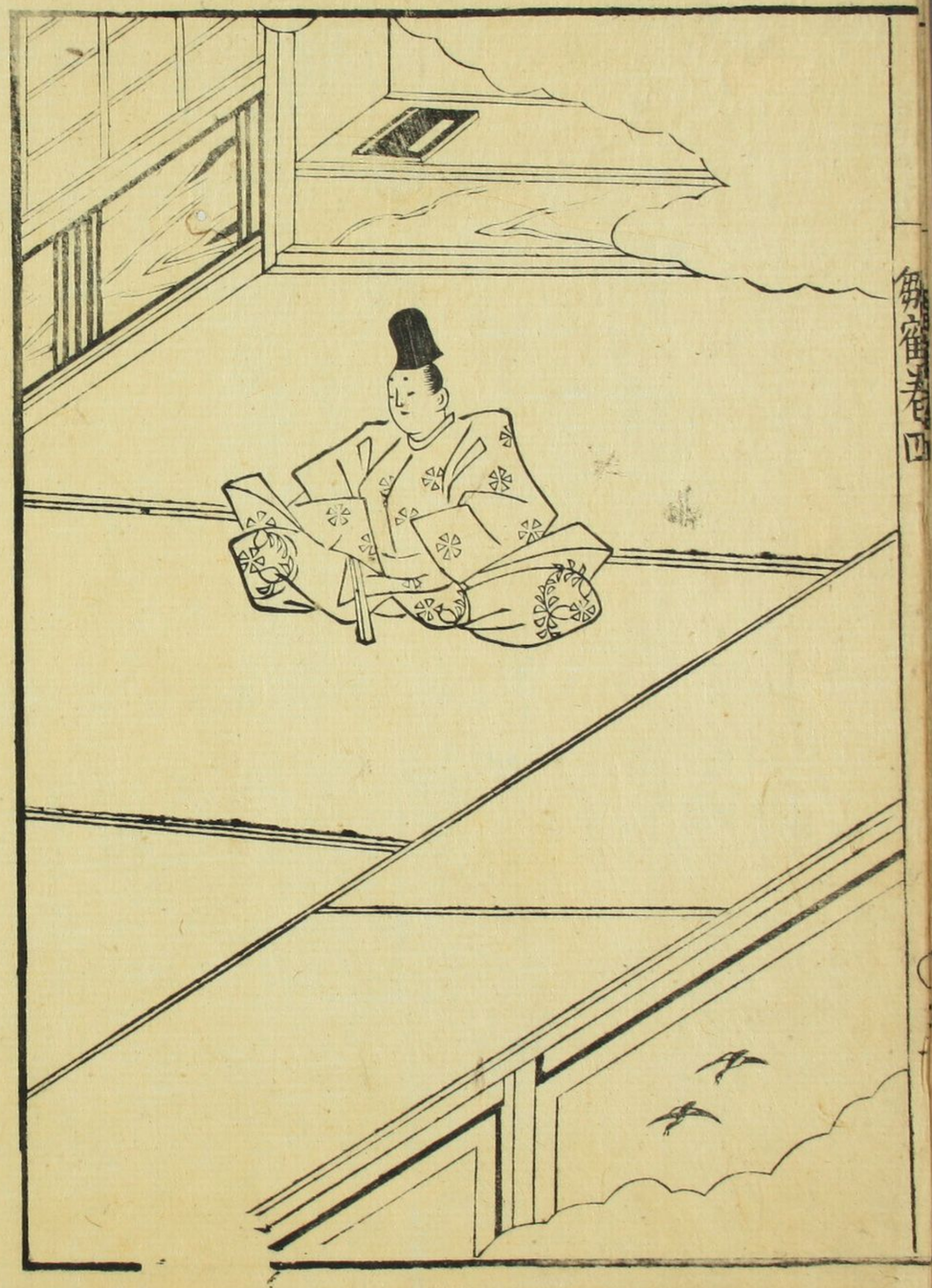
雀の聲

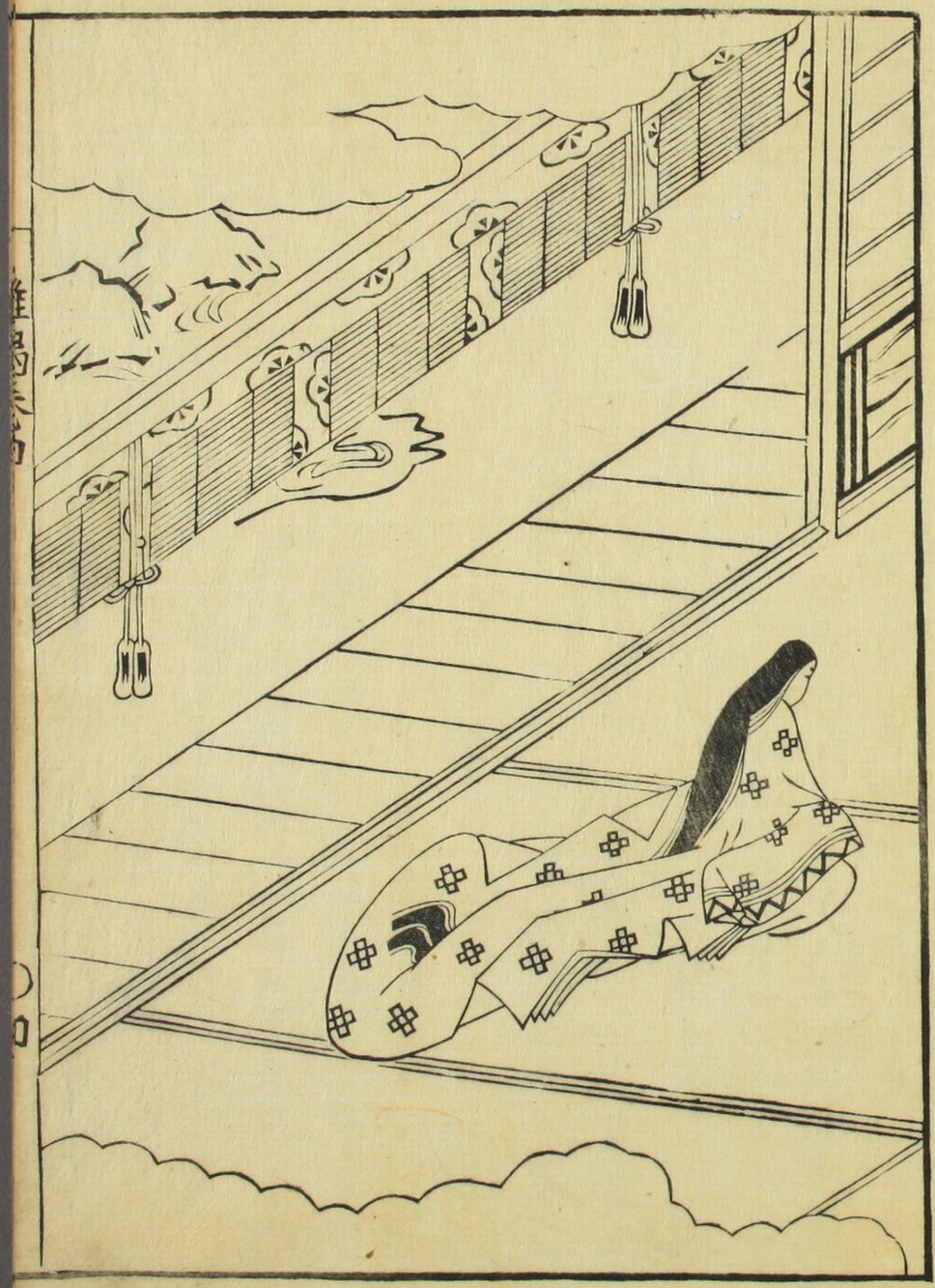
琴音ハ聞意

詠ゆ先より立居女色者
油部乃女ハ世乃中垣

光天ハ。よろすくさゝし。ゆゑ[illegible]のうへ乃事を。年月
ふまでに[illegible]つゝそらまでで。かよひまゝ所ハ。どくもうしこも
うらとけぢ。わかひのうへ。[illegible]のこゝやと所を。よしじ
めしして。つるぐ乃女中まで。[illegible]きさく乃
むすめすわだ。さけとたてろ所とこいり。いつとそ
も。たうぢんのよれ[illegible]ちするも。こうまりするよ。[illegible]乃
[illegible]の[illegible]けるく。もけやうしうふどうすりとうう
すりと。よるひ[illegible]のつらもるく。[illegible]のゆゑせのこのし
[illegible]すりしを。すつしうとひたうおりひいてこまふ
いかもして。つめひしまもるく。[illegible]やまさよ〇　乃
うつくしきを[illegible]つけぢやと。こりぢ[illegible]ゆゑ[illegible]けさせ
[illegible]ぢ。いろめさしろあたりまハ。[illegible]をとぐめさ
をまハぬ。くまもるく。よすがもとめて。[illegible]を

つゝハさるよ。[illegible]よくすびかぬよ〇もるく。あやまくに[illegible]
[illegible]乃と[illegible]もすし。そ乃うらも。ちと[illegible]こさも
あきハ。一[illegible]すぢ[illegible]あひまひさろよ〇ハ。すげのなさけの一
ことを[illegible]ふし[illegible]て。[illegible]ハ[illegible]もうつしぢ。年月[illegible]〇て
[illegible]おとづきもやと　まらて[illegible]まじも。おしもさしもし
[illegible]〇ぢ。ぢひもるく。ぢいおとこりこだまもいつきま
ねハ。そもくまありつくもありて。さ[illegible]く乃[illegible]ぢ
りし。[illegible]乃うつせこのつきなくてやこにしを。[illegible]
うすりくおりひ[illegible]ふ。[illegible]乃[illegible]も。[illegible]ぜのさよ
[illegible]ハ。[illegible]ぢ。おとづきまふ。うつせ[illegible]と
[illegible]をうらしさよ。うらとけさろありさ[illegible]を。[illegible]乃
[illegible]けよかくまゐて。よくしもこひしう
いよいらど。さゆうすりありもがるて。[illegible]





ゑりけるがゆりけれをたまはざりけり。たま乃めの中
とぞ。惟喬が母乃。太政乃おぼえさしつゞきけれ
めのとめりしが。紀乃有常とい男と。てまんして
うごし女の子。むまれけるを。紀乃有常のうへさまもの。
いとゞいじんして。左将乃令旨して。内裏よりやづ
かりてありけるが。母うしろ乃にすぐれたりけるを。ひろう
心も。内裏もえん。いやすきまれまして。めしつかひ
ずしまふた事乃めのとは。ひゆうぶ乃たゆやぞら
して。かの男よつきあひ。親王の御へらぶりあはせ
令旨へ。父乃兵部が心をつけて。内裏より乃詔
とりも志うりたまへ。故常陸乃親王へ。志さしく
ほいぐ入せあはず。令旨もほいやまくかひりあり
いさらの親王そうそうするせまひて。はむしりめひそり

よそんして。ゆゝり君の事で。令婦。はなすし乃つわくよ
光源ありせば。わがまゝなることなかりければ。その姫君の
かたらひなしやと。思ひ立ちし。いかくはえおりたまはず。母
にもかげりまではひままつりて。ぞうずんはいらすく
出りうけども。かならずハ見せまゐらず。さびしきよひぞ
よ。ものごしにてはたも乃からうすみぞゆうしけれ。琴をとわけ
らまき乃友ましそ。うつさせまゐらせ給ひぞ。琴詩酒乃
三つのともとはいへども。女乃さけよおひて。ようかんずし
きうほどみぐるしきものはなし。ゆゑ女はつゝしめまして。
おのづから乃ぬる○ぞすゝぬるけもあり。故よ○の酒
とあそまうへ。人もくよろぬるすゞし。その琴
ひろせまゐらせ。よねさらせよ。父みこの箏にて
おりしもうのすぢなりぞ。世々んすへのおてつき

まそいわりまじこさぐとのかへ。命神まそし
いまさせて。少をまゐかがのに拝まれもすしと
いへば。まさいつもの乃おもわせぶりをいまうよ。こ乃
ごろのおぼろ月よ。思ひて立ぎてせん。その方も
さとへさぐらまさまと乃まへば。こさのどくなぐら。内
裏も志げかゆくひまるりありなれば。やどそりり
いぐまゐり。父乃命がもらへ。まさて乃身がも
らひも。なかとゆらんまうらねば　か乃ひさらのこや
よ乃ミわたり。光さ見へ。かゆておほせあわせしま
ことなれば。十六夜乃月おりしろさほどよかりす
命神もなひくんまらしてわたりなれば。いでひ
かひて。こよひいことの者すひべきよう乃申しき
なしぬよ。いかなる所いぐそやとゆとは。どひしさ

おくへゆさて。身ぐひとと思ひかせまいらせしむ
くかたんは。らちおしさまと乃まふ。命物かゆまま
わりつぎ〇へ。光宝をいまよのらせ。ワグ身はおく
へゆけば。いまぐ指子もおろさす。ひめさ見へ乃さが
乃じめ乃かなつしさを。なぐめておりします。よ
さおりかなとおひて。ぞ乃者おりしろくんよう乃
申しさふ物。いつとて。もやどとり乃ひかずもくなく。
んおわてしまて。えうあまりしねようらおしかれ
身ぐ一と思とそくのうせば。ひめ君さらひびようふぜい
まて。内乃わいまは志りん人がしる。内裏よ乃かよふ
人乃耳まと御かぐいいかでかひかんとおくしはん
志まんまて。山拝まりおさせまへば命神は光宝
乃いかごさりせまわん。日ころはことのかつ子のや

うまゝなせしとて。むかしもつぶきてあせをうさ。聖。
こさくにりなくてゆくり。かりにかうさるしまふを
さゐでおしくをなし。琵琶三味線すものやうにふ
なく琴乃音。なにあらぬものがかさるしてを
おりしろくなりしさものなるよ。よりて三曲れてを
しじなきが。さしたる姫曲をひうせまふまはあらん
ど。光天もさきなくしともおりひまつす。あきつる
ゆくさびしこさ所よ。父親王乃いづさうしづさまひ
なぐりもなく。かすりなるさゐまそ。ひらりすこまふん
ひゝ天乃此にのうらおりひやうきて。かゆうなる所に
ふう。おりひ乃かうなるかりぶしはあき。すこし
立よりて。久めしさ玄蕃をいひうけて。やう
もを見りやと。おりひまへど。さしつけてハ。かうぐ

しりややうまつんなどく。おんじ口づくひまふよ。余ハ
ハ糠なれど。ことぶこなひのなさ所よ。此琴やうさせ
中さりやとこさをつけて。らりりがらなる兎まもゆうれ
つがひへさう人乃まゐらんとやはを。ひとひがほよ。空守
しもやさわよじ立ぐ。よくさかさ〇てんしげうよ
うあまつらん。おらしもと云。こ乃此格子を。おり
させまへとて。いうざうかゆへ入まぐ。ひうあこ天を
のらりあほさかぐまて。琴乃音けや見ぬうかれ
三曲乃さうひを。さくつぎがしすや
乃まつさ所。いゆしくはおりひ所ぬやうをなれ
ど。命ぬもしをらつるね。おなしくはちうさ所を
ゆなぐのまつを。立こさ立てしとはらうきは。命
ゆをしくにまくこさほどまて。よひらわに志まひ

ようがましだやとおりへば。いかでかさゆうにうぐ
らさしまいてしけれん。かてもひさら乃親王乃はじ
ちめ。うふすうすうすまひまて。おりしかせばとて。もの
さいおりしかせば。光君もぶかしい。多里乃こらくし
さへ。初今まいうらとけぶ。こなるうらも。いかふうり柄
なりはとて。もごゝ見まもなりぬもれぞうし。ようしてや
こまいは。原氏乃いとおし見まひし。はひまめな
まい。さけうくぜひまといふまいあらずワゞおりふん
乃かどを。おりよくいつるへまと。ぞまくあのこおさ
うひて。とて寝ほかま。ちぞりおかせまうふ事やあ
なるん。たのひて出させまふ。今柄はおりに立
なぞし。所門乃つゆく。あまり美解におりし
ます。りいおとこ乃やうまなるこ。おほきらあく

ようおりしぶ也。これがどに母屋まて。やつまもちまさまふ
はありさ由を一め出いらんに入しといへば。光君も立りぜ
つまて。かりの人のいとんやうま。とぞみいひあてらまえ。見を
おぐめるさうとぞるといへど。女乃好色はなふとりいかん
なぐいこ神のようを由りて。いきとつめ。ちらがりをさく
まおしはて。ありうましとも。あしうふ見ておなさりと
乃なへば。今柄も。身におぼしのあるうけさもれなれば。
えくしくなりて神ていまず。もしをおく乃るより人や
きくらんとおりひ立へば。光君をうけまや立いでゝ。
行くさ乃やぶまのこりさうけに立うひて志のび江
ようあれとは志しず。こ乃かさねに立うひてかくまれ
しう男おりかり。光君も。首悲しまひて。なふものしや
こさせけすこ乃ひめ君へ心がけさう好色も乃なるん

ゆぐんのうへ。世の中とおもわまして月げ乃ひらこさ
うるかゝらこまふ。既乃中ねるりけり。こ乃夕つゝる
内裏よりもろともに出まひしが。わふひのうへの山かゝる
つもよりまつず。二条院でもゆさまつず。後にて口まき
まへだ。いづ。こへ乃山出しやと。ゆしくゝ。ぴゞ身もこよ
ひとちぎりおきし。よ。乃もへもゆるず。山おとにつ
こさてこうかぐひかり。おどけるさすがこまやつまこれだ。
うまとハえおりまつず。こ乃見やへさらよらせまへ。
わやしくおひてこらやすらけしよ。其乃青れさこ西
まだ。さてこうとおひて立こさて上けるよ。かゝるく其
もひこさへ見て。おけやりしあるていまれだ。いりくゆ
りしりまつて。りしやひかゝ君の。立いてまふこともやと
まらいこうまりかり。君いこれとも見口中まつ。だ。

おらまつじと。ぬさわしうそ。あ世こ出させまふよ。山うバ
へふとよりて。口まとまりせまひしがあくさる。山おとまつさ
てうぐひしまり

[illegible]

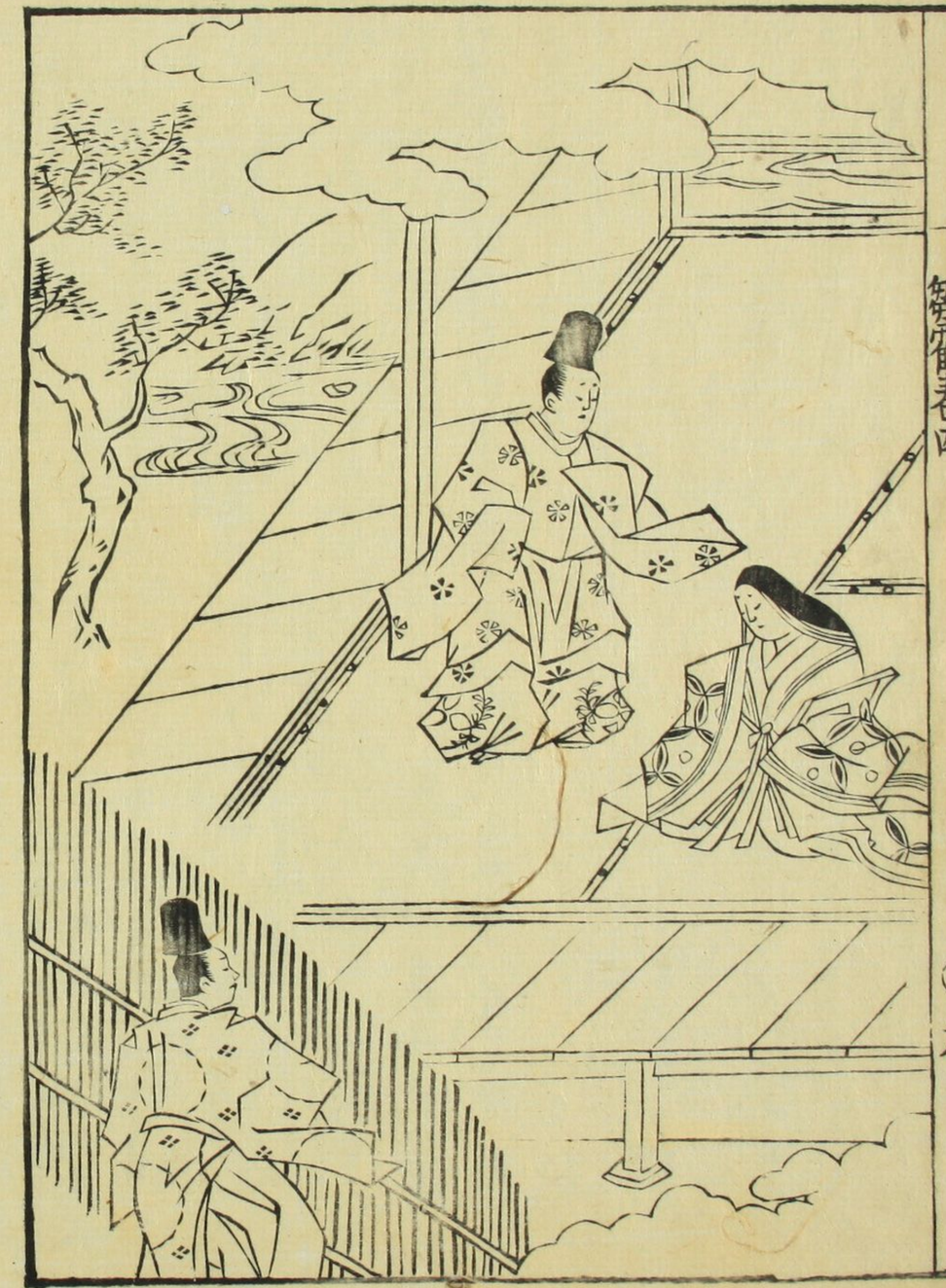
もろとりに内裏山をいてつまぐ
いろうこ見せぬいさよひ乃月

也。うら見かくなもうなさけまで。既中ねと見さざめまひ
ておしくまりれ。かくまそ上さひこんとハおひもよらぬる
まわだ。めくさもにくし

[illegible]

里まうぬかけとハ見れとゆく月乃
いろこの山をこれかあづぬる

也。乃夏だ既中ねかく御江を。おこひわりかバ。いかよせさせ
まりん。実かしかゆうまる恋を。粋をおともまつまつ
てこう。よかくしきてまんもまるべきま。いつとてはめし



つまつれよ。屋つまとまぶるゝ乃に志のびあつまさまは。うるくしき
ことはいぞくろ物ぞと。よしめよまりていへど。光忘りやう
まうこと。見つけらましハくらおしあれど。かゝ乃夕ぶ月のうへ志
ことを限中ゆゑ。夏もしらぶりしをぶ。に山のうちまハ。お
もさ劫まおぼしめす。とてハ毎ぐひまおりしくなりて
たまひ。こよひうまうずと。海くうくせしよ。乃るゝへもゆ
うず。あぶぶしめしてひよろ車まりて。月乃おりし海里
こそかくまさる居すぐし。笛吹わりせて。あふひ乃上れにうるへ
まいりまふ。さに供のたいくといふこ志もやめさせて。人を
見ぬらうへ。に鬢朱とりよせて。やつまとまぶるをあらゐ
め。今くろうりまもてまして。まる笛を吹わりせて。入まへ
ば。おとぐ。琴笛ハすさみておりしませば。こゝへうまて。こ
ま笛をりいぐし。上まにておもしろく吹まふ。あふひのさ

乃はかるの女中は。翌のそもあまるあまだ。めしいぐして
門せまふ。中勢とて。葵乃上れはこしもと。どうもいはま
ぬうつくしあるよ。現翌のこもりが。日ころ阪中将乃
うらこんでくどうまつしをつまるくなびかずして。光氣へ
ハ。あるこからもらかけてぐる。もをとりまへぐ。そのてをぶ
としぬ。よりうひまへぐいぐきつさ。どうなりとうなり
と。おほせハそひかねさざし。あびかさなりてかゝまるく
あれいつともなく。あふひ乃この此母大こやこさしめして。
大中将おほしめす。此子の阪中将をこさらひまいらせ。ひと
つまむすめよ。おさななじ見のむこどのへハ。こなるらもら
かけて。もとより乃性通を。いよくうハさまなしまいら
としハ。ひとうなならず。大あんなるおんなめと。此志うりにあ
いく。此ぜんへいづるもならす。つがひまに門こもりぬて

光氣の此十がる。ちらとも見ぬ山つまも。門こもらバやとハ
おもへども。此こ急をぐるこさうずハ。命いきてもなふのうひこか
わらんとおもへバ。こ乃まゝ門をなまんも。さんすがよんがろく
おもひ見ぐれてぐあり。あり。光こさ見も。阪中将も。ふの門
よハ。ありし翌の音ふひ出して。あいまなりしも。
ねのさ見など。おもひやりまふ。阪中将ハ。ひろこさ見よ
脇をうけたる女どの見にて。りしやうつくしき女乃
あまがどこびしき家よ。ひとりすゝ乃ふがそく
今月をおくるを。見いぐしてあひうめ。ワぐさまいりてお
もしろくハ。ふすぐらもうかくとあらぐまて。とうものもて
ようず。世ゟ乃人のひとんまるほどうまゆらん。光氣
乃よりいりまへぐよりやるぐよハあしくとうこごかりしく。
さ見く乃ひなぐんようもおしく。そ乃らハひろ君

も臣中将も、おりひく乃よみずも此めて、かさくどれたる
御見乃ゆすかさるれど、ひとくぐり乃御遊るもなきれど
あまりよつきなさんかな。わきなどゆすりなるも自ひ丁酉
人ハ、世の中れなけもしり。氣めしなきにはあらずとも
時し乃菓本よつけ。とりく乃宮のましこふ和なして
あまりさりふさしまとかさる遊るハ、なまりくりしかゝ菓
んもなさ本石のやうにつきなさハ、もしをむ筆ふや
あらんとまでおりいく。臣中将ハまりてんをせられ
て、光君もふまりつゞいもうとむこなゞらさしあひ
もくしず。なふつけても面ぐてなさ御あいされなれ
バ。ゆ乃琴乃青の面んじハ見まつや。さりたるよ
うきくどれつりハとしが。つきなく遊るもせざりしと
たゞうにいへど。光君さんだこしう山をきもれ。あでよハ

わしじとおりひしが。わんのごとくと思めし。つぎ此そこて
ハ、宮をもたせて。ぜひとも遊るをとんとおりけ〇だ。君を
とばと。乃まふかし。夜の。こそくりましは。どうゆしこさこあ
しく。いかさ夜ひろ君へハ。遊るもわりつるぞとくらあし
くおりけまたる。光君さ御でふくをおりひまゐぬ。遊
るもせ〇だ。いよくうらつけれたるゆうにて。おりせしよ
臣中将のあしこさ。会はよいひようゆうをなれだ。もし
もそ乃ゆるよんひまて。なびくこともや。つきハ臣中将
よりさはよふこなどもつりハせしよ。せんこさわてハもゆん
なりぐと。こまよまゆあじ乃んて。命婦を得んよろ
よかたしひまふ。ひとくぐり乃遊るをさへしまゐぬ。
あでうう志よく乃うハさまて。なげ乃なさけの実よハ
わしねとうたがりせまやとおほたり。さりとてハいつりり

なるゝぬおもひぞや。たゞさよねぬるゝひとて。おとこなきとしし
乃恐性(おくしやう)わきバ。ことくしくそりすて。うぢうしもとがら恋を
つけ。おやさとへいひやり。一門中へふさこ見て。おとこ乃
うさなをあて。うの事つ乃りて家出(いゑで)をする。こまひとへ
まゝ〇のんたやうにやいしうるゝぬゆへぞかし。か乃ひめ表
ハ。ぴつしくいふべきあやぢもなく。ことに物ゆいしうりて
うすうるゝひとりずれしまへだ。わいまてはいとをしくだ
ざさとかゝわるゝもなくて。いやまさハ。つまつ〇くのね
がひなりぜひにあのひとのまへを。今ゝ娘さんハ心屋
まちなをとりえんまて。とりくのなぐさんもれにせん
とおほしめすぞとすいまゆうして。さゆうに時ゝ
乃。れうさやどり乃ゆるぐさんをハ。似合(にあい)ざるゝ乃ひや
がしぐあぐひこすゝに物もぢして。うらとしけるゝ

ゆゞくりなぜしまゐるもなく。おりひ乃ゆゑ志よ志んよ
おいしまなと。つゞく乃はありさ面を。ひしく かゝまば
さそハ面ぐ ゆゆくりよ志ゆうにて。ぎ間と志てうゝ
とくなさむまんつき。いよゝこゐる乃ゆまりせよ面
おりしろうんと。余姫をねんごろよせめまふ。おこり
をいづしひまひて。なぐりもどこゆしふくしあ。そ
なしこさる。よる茂づがのりるを。ゆ乃いと面なく志
なげきまふほどよ なほもすぎ。わさよなりてそ
いとゞも乃まびしく。志づるよおりひつゞそふ。ゆ乃
ゆゆほのやどにて。去年乃わさ。取うし面しかり
しこさめる乃おと。うしうすのうかさうりしこも
こひしくおりひいぞしまて。もしさゆうなりゆり
ぶしもやと。ゆ乃ひめざ見へ。志げく 15 つゝかな

へども。いさくうの出ゐるも志まゐぬよ。まけていゆほし
乃出てろつさて。いうよつまるさ出ゐぐや。ひがこ
まかよおりひうけろよ。の。かくまそつまるさハ
なさ姫をと。余姫をせめまへだ。さゆうよつまるさ
出ゐまそもなく。面ぐも乃ぞづしくつよしさよ。お
なるうゝまをさし出しまゐぬと見てゐとゆせだ。そま
ハたさなるゆゞまなり。と同とおさるさりのくゐもしら
ぬかぐ。あるひハおやちらかしのいさめを蓋し
て。ゐしなせぬハことりなり。こまハさゆうのさかりを
なし。ぐし乃ゆゞもおとなしく。なかるも心見ひあて
かとうなるひとりずゝのさひしきありく。こるもお
なしゐなれば。面ぐありなるふ見の ゐるハ。ゆさうハ
してなぐさゝ見まふよ。なふのえんまよ乃あるべさそ

わが親ひもろの事のなるたけよくたかくぞいひ乃
いさらのつめひときもむつしく。よそに心あれはさじ
いふすしもなく。あなたのわまするすのこのうへよ
立やそらふもおもしろかん。ゆへにふたくしも。此方(こち)
ひさせよ。さくへ（ちらく）ようあかしも。せりしすきさや
けざみづからわれはまづきらうずぞ。さづてひきうてこおもじ
とのまへぞ。今的もいたしよきりて、六。藩楽(そうらく)あして。い川
ぞやさひしさおかうしぷ。ちゆがくろのつあそでよ。か
よんすく。この。ひめこのかん乃ほしさを。ますしやうつし膝
しに。けとをまてうけず。そうしてひろう君は。いろある
もじの。もすしよは。御免てよくぐめて。小森(こさゝき)の日用(ひよう)つ
しら乃德龍(とくりう)がむまか。下立賣(しもたちうり)乃裏屋(うらや)よおかる。筆(ふで)
ゆひがいあうと。おろせの六物が姪(めい)のことすぐ。よく

しれて。奉行(ぶぎやう)すぞでもつきときのすいぬはらせぞや。この
ひめこかん乃事。しんじつまのまゝぞ。いやるもいまき
あぶはするゝはよくも見ねど。これはあすしのゆばらしく。
ありしてて。先君のおこ御よわはざるとき。おとづき
もしますりずはる御じいるいとおもこまる思いでさるん。
父うや乃おりしませし御まさへ。かうあうしきわかう
しそ。いまゆうの条このひとへすべは。まりうつぶらしるよ
なうていよは。あさぢうつ由すらもらふへあるたれ
ようまえづしき。先君のぞやうくれをひまりまへば。ほ
こさづきのかう女房(にようばう)達。系見んをあく見えて。これみちする
あやまへて。そくのしやせずも。わさ御しこさかすぞあ
まらしそ。これか見んをふとりて見えまうず。令婦い
よいぜひあるくりず。ようさあかりわるば。もののごしりて

わりせまいらせん。うゑうゑてはんなあいぎハおもひと
まりおもへし。もしまゝこはえんありて。あまさるにも
うまひおりんよ。あまとゞむひうへもすると。うにさるう
せうて。ちくゐ[ゆやうぶ]アにもかゝりあいせず。んひとのよの見
こんで。ひめざ見のは方へまいりたり。ゆう女房[にようぼう]を見
ゑこまハんしぶりけしゐはいでこゐもハ私よりて。
いよくものさひしく。はうハさのそやくしつると。
いつもやどおりの見やげをあてる。まげをるひぬ
ささる。はちやをひとのるど。らりくまいすもおりし
く。ごろしを八月[ようか]十日すぎのことなれど。よひすぐる
かとまゝるゝ月の。んもとるさま。ちんくちら見く
かしゐひかりぶりさやあくて。私ゐこずる[ゆかぶ]
のおともんぼうく。ひめ君ハいましへのるまく[ゆかぶ]

出して。命婦がこやぶの。一口屋乃よんぢう。うねろう
もら。ゆうりんなどを見るようけても。ちくこや乃こと
しひしく。私(わさ)のゆふ屋のさひしきよ。いろ〳〵のこと
せさ勢なひて。なくさ見しに。うつりかゝる世のなり
ひ今ハさまとふへもなくあけ見ひとりなが先らすと。むか
しのすゞ見ひまれど。とりくおとづれらなくうましさよと
て。うちなきなふさま。も乃わハ見まて。命婦ハよきおりかなと
なるべ。光君へ。こよひ出あまりしと。いひやりされし。やがて
志のびゆりて。おハしまさり。月もやうく出て。あまりさ
ゆさう。庭も海うさもうと海しくうちながめて。ひめ
きさんハ。琴をかのうにかきなしなふさ海まくらしず。
いさしまとし人おひありて久めきまへりしと。命婦
かゝりさなるんよりなりひ居たり